

三好市こころの健康調査・分析事業【徳島県三好市】

(実施主体) 徳島県三好市	(基金事業メニュー) 強化モデル事業
(実施期間) 平成 22 年度～24 年度	(実績額) 平成 23 年度 1,393 千円

【事業の背景・必要性・目的】

徳島県全体の自殺者数が平成 21 年から 23 年にかけて減少傾向にあるのに対し、三好市における同期間の自殺者数は増加傾向が続いている。

そこで、研究機関と連携し、三好市における自殺を引き起こす背景及び意識調査を実施、分析し、効果的な自殺予防対策事業の具体策を検討することとした。

【事業の内容】

○平成 23 年 1 月に、「三好市こころの健康調査」を実施

- ・三好市に住民票を置く 20 歳以上の男女から無作為に抽出し、転出や死亡等を除き 1,990 件を配布。
- ・回収 1,913 件（回収率 96.1%、有効回答率 98.3%）

○調査項目

- ・回答者属性
- ・地域や隣人との関わり方
- ・援助・被援助に関する意識
- ・人物評価に関する意識
- ・政治に対する態度
- ・結婚や家庭に関する意識
- ・自分をとりまく状況への認識（幸福感、社会階層意識等）
- ・悩みやストレスの度合い
- ・「うつ」や自殺に関する意識
- ・その他

○分析について

日常生活における住民の認知や思考の傾向を探るとともに、同様の調査を実施した県内の自殺希少地域と結果を比較し、分析を行った。

【事業実施に当たっての運営体制等】

- ・調査・分析については、慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科への委託により実施。
- ・調査用紙の配布・回収は地域の民生委員が担当し、回収率の向上を図った。

【事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点】

○調査結果の解釈

- ・地域や隣人との関わりについて、「生活していく上で地域や隣人からのサポートを受けざるを得ない」、「相互扶助は不可欠である」と感じている人が多い。（高齢者は特に）
- ・内向きに結束し、排他的気質を示す傾向が比較的強い。
- ・近所付き合いは緊密であるが、地域や隣人に対し「迷惑をかけること」について

自殺の実態を明らかにする

否定的な感情が強い。また、周囲に迷惑をかけまいと、自分を律する意思が比較的強い。

・悩みを抱えたときに「助けを求めること」への心理的抵抗を感じる人の比率が高く、特に高齢者層にその傾向が強い。

・他者への評価が人物本位よりも年功重視である人ほど、援助希求に対する抵抗が強い。

・自殺許容度の高い人ほど援助希求に対する抵抗が強い。

など、アンケートの結果から特徴的な傾向が見られた。

今後においては、行政機関の相談体制の充実及び民間機関との連携の強化等を図り、住民の方が相談を行いやすい体制の整備を図る。

○調査結果を踏まえた自殺対策の提案

【短期的な取組】

周囲の人は、「『助けを求めること』への心理的抵抗」などの調査結果を頭の片隅に置き、「自殺の危険がより高い人」への声かけや見守りの実施。

【長期的な取組】

必要なときに「助けて」と言えるように、自分を価値のある人間だと思えるように、子どもの頃からの「心の健康づくり」。

○調査後における自殺対策の取組（平成 23 年度）

・三好市自殺対策検討会を開催し、関係機関（医療機関・消防・社会福祉協議会・ハローワーク・婦人会・老人クラブ・商工会・教育委員会等市役所他課職員・隣接する東みよし町）等への調査結果報告と意見交換を実施。

・市内各地で、調査結果について市民の方の意見を伺う地区座談会を実施。

・三好市民生委員児童委員全体研修会で、調査結果の報告・意見交換会の実施。

○県保健所との連携による自殺対策の取組

・平成 23 年度の自殺対策強化月間において、三好市にある「ハローワーク三好」で心の健康相談、多重債務等の法律相談を含む総合相談会を実施したほか、相談会の開催及び各種相談機関の連絡先を周知するチラシを、新聞折り込みにより戸別配布。

・三好保健所において、小中学生を対象に実施している「こころの健康教育」を継続して実施。

（問合せ先）徳島県保健福祉部保健福祉政策課

TEL : 088-621-2179

E-mail : hokenfukushiseisakuka@pref.tokushima.lg.jp